

B—15 乳幼児の被服と体重増加との関係について

東京家政学院短大 岡野 和子
○伊藤 若子

1. 先に乳幼児の被服環境を理想的に整え、健全な発育を促す目的をもって、乳幼児の被服所持量の調査をし、その結果を発表したが、今回は季節による被服の着用状態と、成長期にある乳幼児の被服が体重増加に及ぼす影響を調べた。

2. 昭和37年9月、東京都江東区深川保健所において、定期乳幼児健康診断の当日来所した1988名を調査対象に選んだ。

昭和35年現在の厚生省発表乳幼児身体発育値により、乳幼児の体重を区分し、その被服の着用状態を調査し、つぎに38年2月再び同一乳幼児につき、その後の体重の変化と被服の着用状態を質問紙法により解答を求めた。それにより得られた636名につき、考察を加え、更に乳健により選出された優良児のそれとも比較検討した。

3. 5カ月間の体重増加率は、最初中であったものが大に、小が中に変化する場合に特に著しいが、それらに属する乳幼児並びに優良児の着用していた被服の繊維は、木綿が毛織物などに比して多く、一般に薄着が体重増加に、より効果的であるものと思われた。